3. 生活環境影響調査項目の選定

3.1. 本調査実施にあたっての基本的な考え方

本事業は、既存の焼却設備の延命化対策として、焼却炉（50t/16h×2 炉）の改良工事を行うものである。改良工事中は、可能な限りごみ処理を行う必要があることから、原則として 1 炉稼働しながら 1 炉を改修する工事を行うこととし、1 炉の稼働時間は 1 日 16 時間から 24 時間の稼働とする計画である。なお、焼却炉の改良及び時間の延長以外については、現状と変更はないものとする。本調査においては、「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」（平成 18 年 9 月、環境省 大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部、以下「調査指針」という。）に準拠し、現状と変更後における環境への負荷の程度を検討し、現状と同等又はそれ以下の負荷に低減できることが可能かを検討することをもって、影響分析とすることとする。

以上の状況を踏まえ、適切な調査項目を選定した上で、周辺環境の現状を把握するとともに、予測及び影響の分析を行い、良好な環境の保全を図りつつ、事業の円滑な推進に資することを基本方針とした。

3.2. 調査項目の選定

生活環境影響調査項目の選定結果を表 3.2.1 に示す。

事業特性、地域特性を踏まえて生活環境影響要因に対する生活環境影響調査項目について検討した。なお、生活環境影響調査項目の選定は、調査指針に示されている焼却施設の標準的な関連表をもとに行った。

選定した理由及び選定しなかった理由は表 3.2.2 に示すとおりである。

表 3.2.1　生活環境影響要因と生活環境影響調査項目

調査事項		生活環境影響要因 ＼ 生活環境影響調査項目	煙突排ガスの排出	施設排水の排出	施設の稼働	施設からの悪臭の漏洩	廃棄物運搬車両の走行
大気環境	大気質	二酸化硫黄（SO_2）	○				
		二酸化窒素（NO_2）	○				－
		浮遊粒子状物質（SPM）	○				－
		塩化水素（HCL）	○				
		ダイオキシン類	○				
		水銀	○				
	騒音	騒音レベル			○		－
	振動	振動レベル			○		－
	悪臭	特定悪臭物質濃度及び臭気指数	○			○	
水環境	水質	生物化学的酸素要求量（BOD）または科学的酸素要求量（COD）		－			
		浮遊物質量（SS）		－			
		ダイオキシン類		－			
		その他必要な項目		－			

備考　○：焼却施設に係る標準項目で、今回選定した項目。
　　－：焼却施設に係る標準項目のうち、本事業により環境負荷が増加しないと想定されるため、選定しない項目。

表 3.2.2　生活環境影響調査項目の選定

調査事項	項目	細項目	生活環境影響要因	選定・非選定理由	選定の有　無
大気環境	大気質	二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、塩化水素、水銀、ダイオキシン類	煙突排ガスの排出	焼却炉の燃焼時間延長により、夜間において煙突排ガスの排出時間帯が増加するため、調査項目として選定する。	○
			廃棄物運搬車両の走行	焼却炉の燃焼時間延長による廃棄物運搬車両の搬入台数に増減はない。現況と同様に夜間の搬入出は行わないため、調査項目に選定しない。	―
	騒音	騒音レベル	施設の稼働	焼却炉の燃焼時間延長により、夜間において騒音の発生時間帯が増加するため、調査項目として選定する。	○
			廃棄物運搬車両の走行	焼却炉の燃焼時間延長による廃棄物運搬車両の搬入台数に増減はない。現況と同様に夜間の搬入は行わないため、調査項目に選定しない。	―
	振動	振動レベル	施設の稼働	焼却炉の燃焼時間延長により、夜間において振動の発生時間帯が増加するため、調査項目として選定する。	○
			廃棄物運搬車両の走行	焼却炉の燃焼時間延長による廃棄物運搬車両の搬入台数に増減はない。現況と同様に夜間の搬入は行わないため、調査項目に選定しない。	―
	悪臭	特定悪臭物質濃度又は臭気指数	煙突排ガスの排出	焼却炉の燃焼時間延長により、夜間において煙突排ガスの排出時間帯が増加するため、調査項目として選定する。	○
			施設からの悪臭の漏洩	焼却炉の燃焼時間延長により、夜間において施設から悪臭が漏洩する時間帯が増加する可能性が考えられるため、調査項目に選定する。	○
水環境	水質	生物化学的酸素要求量、化学的酸素要求量、浮遊物質量、ダイオキシン類、その他必要な項目	施設排水の排出	本施設はクローズドシステムを採用しており、施設排水は行っていないため、調査項目として選定しない。	―

○：現地調査及び予測評価を行う項目
―：現地調査及び予測評価を行わない項目